



電磁波吸収テープは、IEC コネクターに貼ると効果的ですが、効きすぎると感じる場合には、ケーブルの任意の位置に貼り付けてご使用ください。

電磁波吸収テープ「MWA-010T」

センダスト合金と呼ばれる高い磁性損失能を持った国産合金を粘着テープ化したもので、任意の箇所には貼り付けてノイズを吸収させることができます。



リン青銅
無メッキ仕様の
プラグ電極



ケーブルの長さは1.2m。精密導体“102SSC”採用・2.0sq×2芯構成ケーブルにメッシュチューブを被せることによって音質、ルックスともに向上!

電源は機器の回路増幅素子に動作電圧を与えることが基本的な役割と考えられてきた時代があった。しかし、オーディオでは音質に影響することが知られるようになり、増幅回路の動作を調べ直すと、電源電流は、回路内では出力信号とイコールに使われていることを理解することができる。このことが、電源のクオリティが重要である現代オーディオの重要な要素として考えなければならない。アンプは特にこの仕組みがわかりやすいが、CDプレーヤーのように電力増幅部のない電圧増幅回路も同じだ。

CDプレーヤーとアンプの接続ケーブルを交換することで音に変化することを経験したことはあると思うが、それは信号経路の部分が変わったことによる。ところが、電源ケーブルは機器自体の本質的な性能を支配している。このことを無視することはできない。

-オーディオ評論家 福田雅光

このキットに採用されているパーツは、コストの範囲で現在最良の性能を厳選している。ケーブル部はオヤイデ電気の低価格で解像度の高い**AXIS-303**を母体に、3芯から2芯ワイヤー構造に設計し直したもの。導体はオヤイデ電気が独自にオーディオ用として開発した精密導体**“102SSC”**。導体断面積は充分な駆動力を備える2スクエアで構成。

電源プラグとインレットコネクターは、現行製品のP-029、C-029をベースにアース端子を省略した2Pタイプとしたもの。試験テストの結果、メッキレスの電極とするのが最適となった。プラグ電極には**リン青銅**、コネクター側は**真鍮**である。テストするとニッケルメッキなどよりも、はるかにキャラクターが素直で解像力やSN比が高い。最近、オヤイデ電気から**ARMORED**(アーマード)シリーズが誕生して、大幅に性能が強化されているが、注目したのがメッキレスタイプ(AC/AP-029)の解像度の高い素直な性能だ。電極を保持する絶縁構造材などが改善された結果、真鍮製電極本来の音質性能が現れてきたと考えられる。

もともとロジウムメッキはコスト的に不可能であったが、それでも何かメッキをしたほうが有利ではないかと、検討したが、そのまま**メッキレス**で使うことがベストとの結論になった。これは、ぜひ試していただきたい。パワーアンプに接続して使用してみたら、現用のリファレンスをしのぐような実力を発揮して驚く。このパーツの構成で完成すると、100万円以上のアンプに使っても効果的であることを納得できるはずだ。

なお、ケーブルの導体名102SSCの“102”という数字は導電率が製造工程の方法から102・3%を得たことからきている。三州電線と共同で、素線の表面性の純度を高める製法が特徴になっている。



ケーブル部OY-ON202AXIS 断面

導体はオヤイデ電気が開発した精密導体“102SSC”を使用。絶縁体は電気特性に優れた高分子ポリオレフィン。外来ノイズは銅箔テープシールドでプロテクト、カーボン層で静電気の放出を促している。外皮は柔軟で引き回ししやすいオーディオ専用ハロゲンフリーシース。外径は10.5mm(メッシュチューブを含まない)。



必ず お読みください

電源ケーブルは、取り扱いをあやまると感電や火災の原因となり危険です。本商品「電源ケーブル・プレミアム(完成形)」のご使用において、あなたや他の人々へ与える危害や財産などの損害、またご使用の機器の故障・破損などについては当社では一切の責任を負いかねます。細心の注意を払ったうえで、ご使用をお願いします。下記の主な注意点も必ずお守りください。

【ご使用に関して】

- ・濡れた手で触らないでください。
- ・電源ケーブルを傷つけたりしないでください。
- ・電源ケーブルの上に重いものを載せないでください。
- ・ケーブル部分を引っ張らないでください。
- ・電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグ側から乾いた手でプラグ部分を持って行なってください。
- ・電源ケーブルが痛んだら使わないでください。
- ・電源ケーブルから煙が出ている、または変な臭いがする場合には直ちに使用を中止してください。